

# 資料編

青森県民の意識に関する調査 調査結果の概要

生活創造推進プラン総合フォローアップ報告書の概要

「青森県基本計画未来への挑戦」策定フロー図

「青森県基本計画未来への挑戦」策定の経緯

青森県総合計画審議会委員名簿

地域別計画検討委員会委員名簿

## 青森県民の意識に関する調査(1万人アンケート) 調査結果の概要

### 1 調査の概要

#### (1) 調査の目的

この調査は、「青森県基本計画未来への挑戦」を策定するに当たり、県民の生活全般に関する現状認識や意見等を把握し、それらを県の政策や施策に最大限に反映させることを目的として実施しました。

#### (2) 調査の内容

- ①生活全般に対する満足度
- ②県内への定住志向
- ③各生活局面（37項目）の現状認識（重要度、満足度、県民・民間と行政との役割分担）
- ④青森県の強み
- ⑤将来に向けた青森県の取組
- ⑥その他

#### (3) 調査の実施方法

- ①調査地域……青森県全域
- ②調査対象……16歳以上の男女
- ③標本数……10,000
- ④抽出方法……無作為抽出法
- ⑤調査期間……平成20年4月14日～4月25日

（ただし、5月14日到着分までのデータを集計対象としています。）

#### (4) 回収の結果

標本数①	総回収数	無効（白紙回答）	有効回答数②	回収率（②/①×100）
10,000	4,125	6	4,119	41.19%

## (5) 回答者の属性

### ① 性別

区分	回答数	構成比
総数	4,119	100.0%
男性	1,596	38.7%
女性	1,901	46.2%
無効・無回答	622	15.1%

### ② 年齢別

区分	回答数	構成比
総数	4,119	100.0%
16～19歳	145	3.5%
20～29歳	335	8.1%
30～39歳	520	12.6%
40～49歳	618	15.0%
50～59歳	922	22.4%
60～69歳	736	17.9%
70歳以上	799	19.4%
無効・無回答	44	1.1%

### ③ 居住地域別

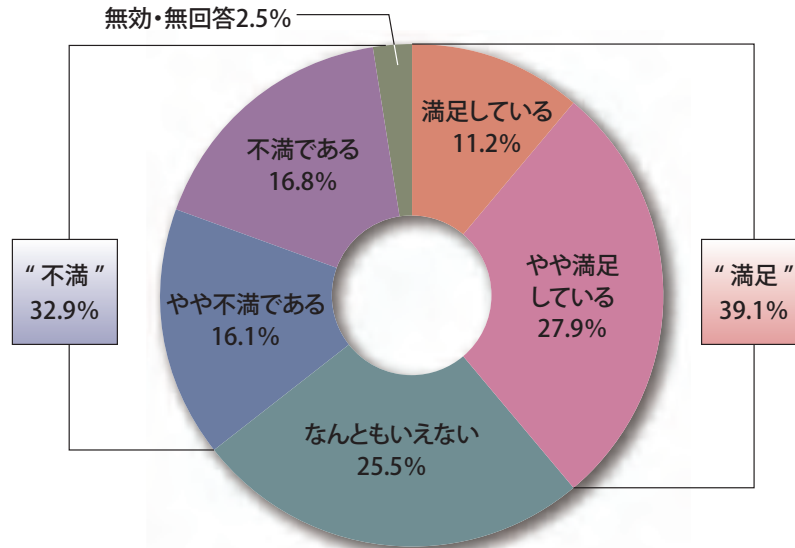
区分	回答数	構成比
総数	4,119	100.0%
東青地域（青森市、東津軽郡）	958	23.3%
中南地域（弘前市、黒石市、平川市、中津軽郡、南津軽郡）	852	20.7%
三八地域（八戸市、三戸郡）	872	21.2%
西北地域（五所川原市、つがる市、西津軽郡、北津軽郡）	473	11.5%
上北地域（十和田市、三沢市、上北郡）	591	14.3%
下北地域（むつ市、下北郡）	234	5.7%
無効・無回答	139	3.4%

### ④ 職業等別

区分	回答数	構成比
総数	4,119	100.0%
自営業	495	12.0%
会社・団体役員	469	11.4%
給与所得者	923	22.4%
自由業(医師、税理士など)	21	0.5%
パートタイム、アルバイト	398	9.7%
専業主婦(主夫)	376	9.1%
高校生	80	1.9%
専門学校生、短大生、大学院生	64	1.6%
無職	1,017	24.7%
その他	123	3.0%
無効・無回答	153	3.7%

## 2 調査結果

(1) 生活全般に対する満足度(あなたは今のご自分の生活について、どの程度満足していますか。)



約4割の県民が生活に“満足”しています。

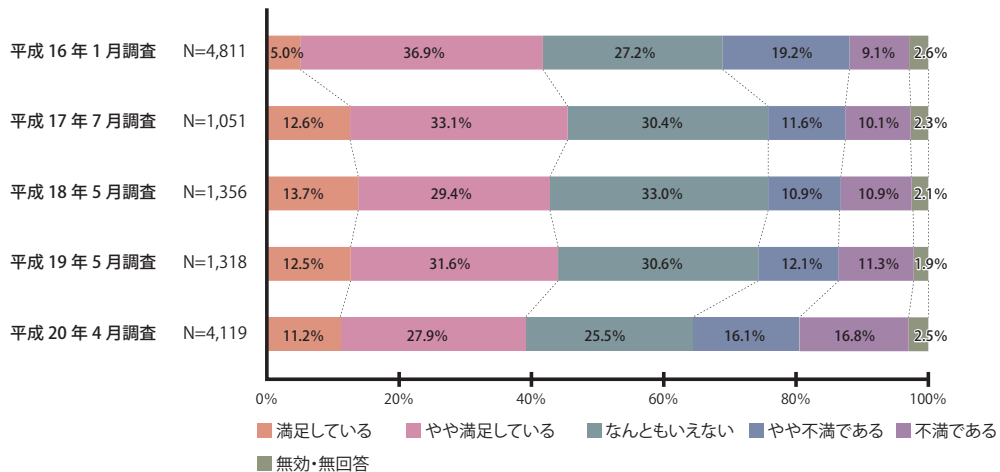
現在の生活全般に対する満足度を尋ねたところ、「満足している」という回答は11.2%、「やや満足している」という回答は27.9%となっており、現在の生活に“満足”（「満足している」+「やや満足している」）と回答した県民は39.1%となっています。

一方、「不満である」という回答は16.8%、「やや不満である」という回答は16.1%となっており、現在の生活に“不満”（「不満である」+「やや不満である」）と回答した県民は32.9%となっています。

このように“満足”が“不満”を6.2ポイント上回る結果となっています。

なお、「なんとなくいえない」という回答は25.5%となっています。

《参考》過去の調査結果



## 【生活全般に対する満足度の自由記述欄からの分析】

不満度増加の要因は、物価の上昇による家計への影響や医療制度等への懸念などが大きかったためと考えられます。

生活全般の満足度の自由記述欄に記載されていた2,512件のデータから、“満足”、“不満”の要因を分析したところ、“満足”では「健康」「家族」「環境」などのキーワードが、“不満”では「保険」「税金」「仕事」「年金」などのキーワードが多く見られました。

つまり、生活に“満足”している人は、「家族や夫婦といっしょに、健康に暮らしていること」に満足感を覚えており、“不満”を持つ人は、「物価の上昇や税金により、生活にお金がかかること」に対して不満を覚えていることが推測されます。

また、「なんともいえない」と答えた中間層には、老後や将来に不安を抱えている人が含まれていることもわかりました。

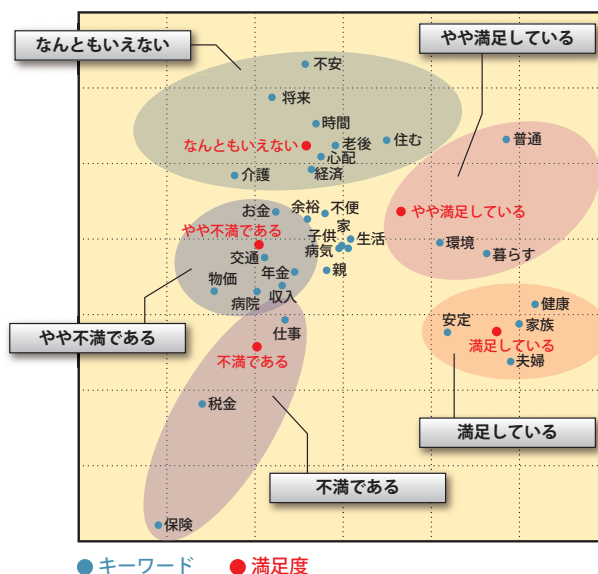
出現頻度が高かったキーワードの中で、特に、“不満”を表す特徴的なキーワードである「税金」と「物価」が、どのような語と共に使われているかを確認したところ、「高い」「上がる」「値上がり」等がほとんどで、ほかに「医療費」「ガソリン」等があったことから、食料品、石油製品等の物価が上昇したことによる家計への影響や、年金、医療制度等への懸念等の結果、「なんともいえない」と答えていた中間層が“不満”へと移行したことにより、満足度は変わらずに不満度だけが上がったものと推測されます。

ここで利用した分析手法は、文章をこれ以上分解すると意味をなさない語にまで分解し、その語の出現数や出現パターンをもとに全体を解析する統計手法であり、「テキスト・マイニング」と呼ばれているものです。

本調査では、2,512件の回答に2,980語が使われていました。このうち、回答者の意向を的確に表現できるキーワード（同義語等を一つにまとめたもの）として、以下の31語を選定し、作業を行いました。なお、これらキーワードによって、全体の81.3%の回答者の72.9%の意向を表現することが可能です。

出現頻度が高かったキーワード

1: 生活	9: 経済	17: 環境	25: お金
2: 年金	10: 物価	18: 保険	26: 介護
3: 仕事	11: 税金	19: 普通	27: 余裕
4: 収入	12: 安定	20: 心配	28: 親
5: 不安	13: 将来	21: 家	29: 交通
6: 健康	14: 時間	22: 病院	30: 夫婦
7: 子供	15: 暮らす	23: 住む	31: 病気
8: 家族	16: 不便	24: 老後	

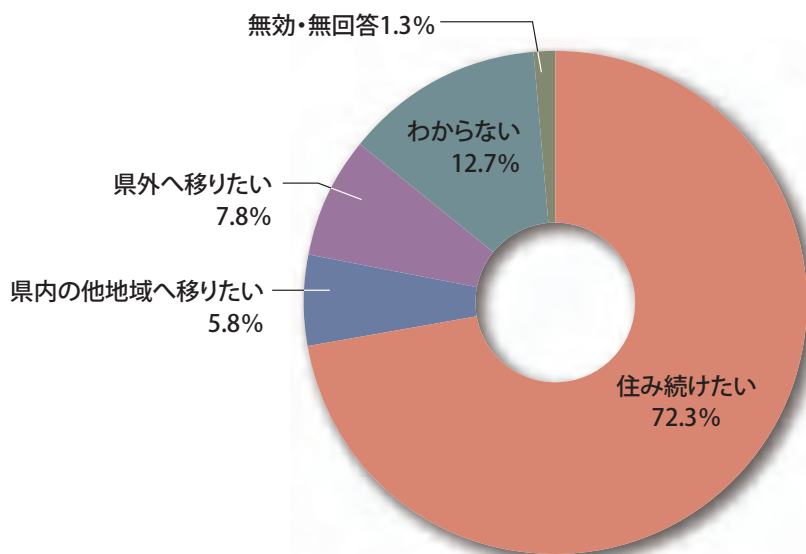


図：キーワードと満足度との関係

※領域はフリーハンドで記載

## (2) 住んでいる地域への定住志向

(あなたは、今お住まいの地域に、住み続けたいと思っていますか。)

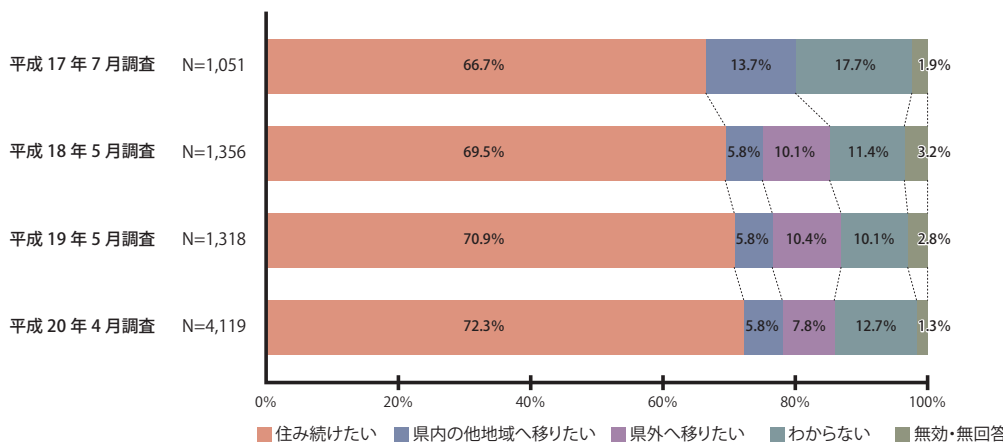


約8割の県民が県内への定住志向を示しています。

現在の居住地への定住志向について尋ねたところ、「住み続けたい」という回答が72.3%となっているほか、「県内の他地域へ移りたい」という回答と合わせると、約8割の県民が県内への定住志向を示しています。

なお、「県外へ移りたい」と回答した方に、移りたい地域（都市部、農村部、気候のいい地域、その他）について尋ねたところ、「気候のいい地域へ移りたい」という理由が41.4%と最も高くなっています。

《参考》過去の調査結果

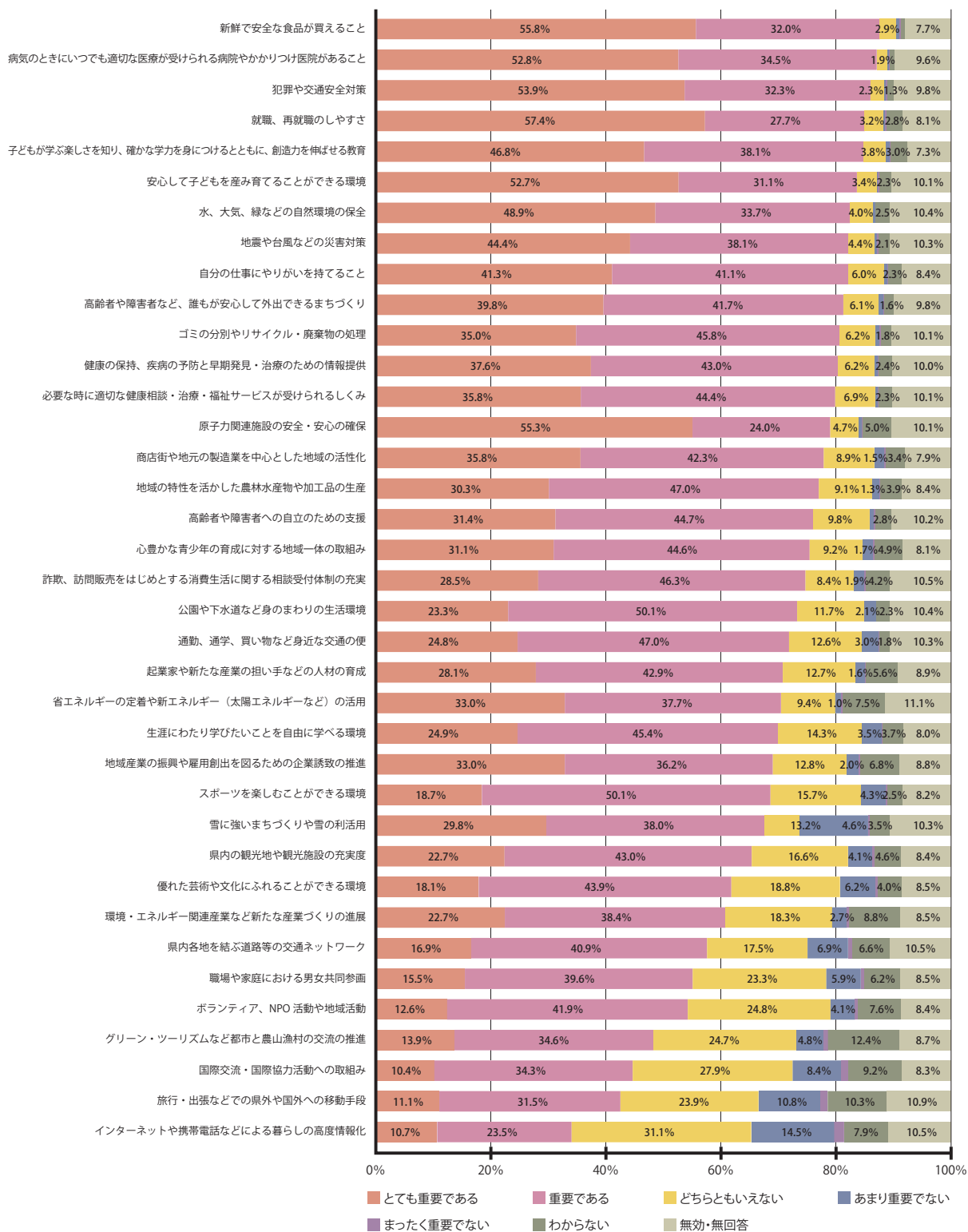


### (3) 各生活局面(37項目)の現状認識

(次のことがらについて、あなたの暮らしの中でどのように思われますか。)

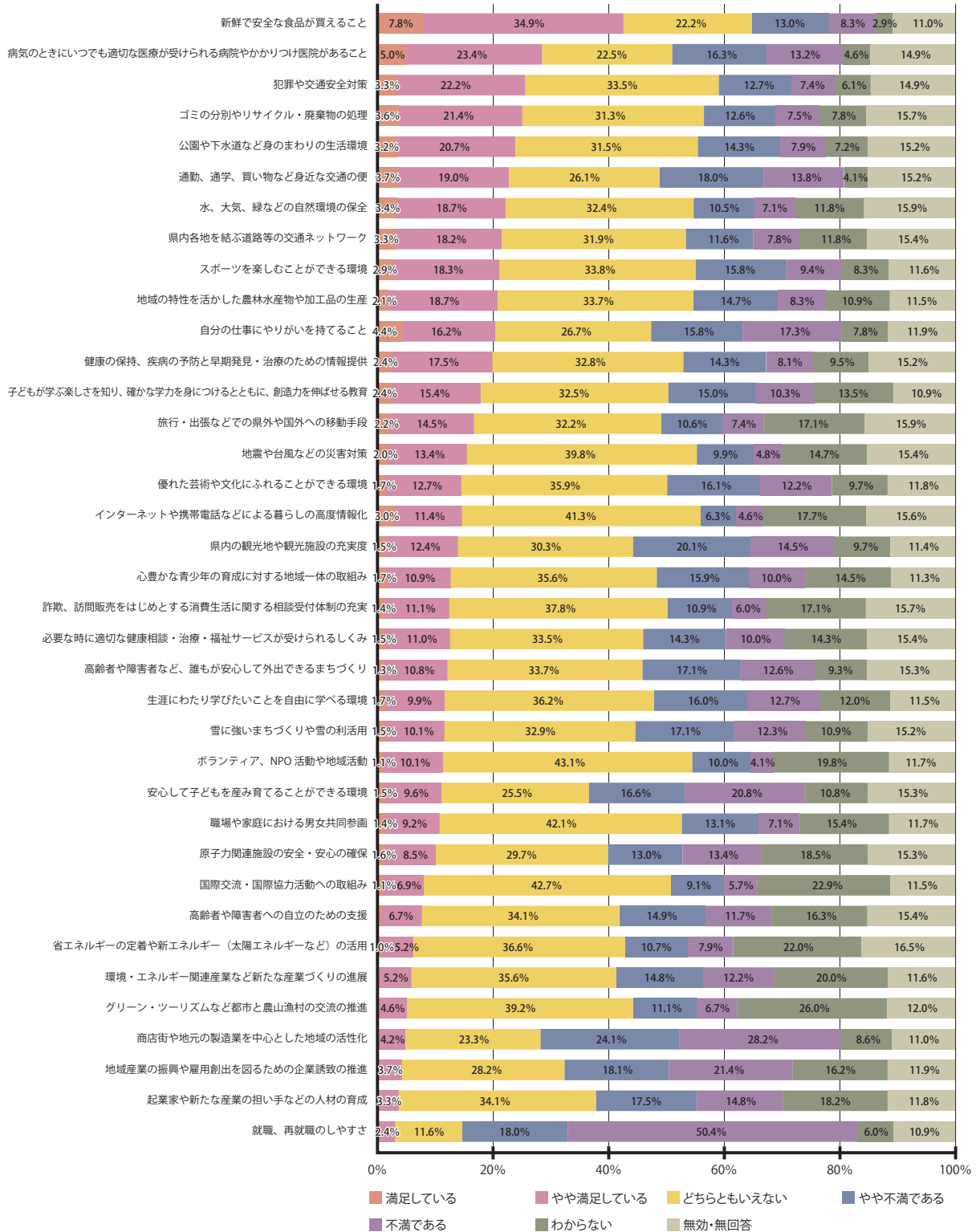
#### ① 重要度

「新鮮で安全な食品が買えること」や「病気のときにいつでも適切な医療が受けられる病院やかかりつけ医院があること」などの重要度が高くなっています。



② 満足度  
ア 全体

「新鮮で安全な食品が買えること」や「病気のときにいつでも適切な医療が受けられる病院やかかりつけ医院があること」などの満足度が高くなっている一方、「就職、再就職のしやすさ」や「起業家や新たな産業の担い手などの人材の育成」などの満足度が低くなっています。



イ 年代別の状況

年代別で満足度や不満度の差が大きいのは「病気のときにいつでも適切な医療が受けられる病院やかかりつけ医院があること」となっています。

生活局面別の満足度を年代別に見ると、「病気のときにいつでも適切な医療が受けられる病院やかかりつけ医院があること」は、60代や70代以上では“満足”と回答した人の割合が“不満”と回答した人の割合を上回っているものの、20代や30代では“満足”と回答した人の割合が“不満”と回答した人の半分又はそれ以下の割合にとどまっており、世代間の格差が大きくなっています。また、20代、30代では「安心して子どもを産み育てることができる環境」の“不満”の割合も高くなっています。

生活局面	満足							不満						
	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
ア 子どもが学ぶ楽しさを知り、確かな学力を身につけるとともに、創造力を伸ばせる教育	20.7%	14.3%	19.0%	19.7%	16.5%	16.7%	19.3%	24.8%	24.2%	26.3%	31.2%	32.0%	23.8%	14.6%
イ 心豊かな青少年の育成に対する地域一体の取組み	16.6%	8.4%	12.7%	13.4%	12.1%	11.5%	15.3%	26.2%	25.4%	23.8%	29.1%	31.2%	28.1%	16.8%
ウ 生涯にわたり学びたいことを自由に学べる環境	16.6%	8.4%	9.4%	8.3%	10.5%	14.3%	14.9%	31.7%	36.7%	34.4%	34.1%	34.8%	24.9%	14.0%
エ 優れた芸術や文化にふれることができる環境	21.4%	17.0%	17.5%	12.1%	12.0%	15.2%	13.9%	28.3%	31.6%	31.2%	35.9%	32.9%	24.5%	17.8%
オ スポーツを楽しむことができる環境	35.2%	22.7%	22.7%	20.7%	18.4%	22.4%	19.4%	27.6%	30.7%	32.3%	31.9%	28.0%	19.8%	14.8%
カ 国際交流・国際協力活動への取組み	15.9%	7.5%	8.1%	6.0%	7.3%	9.5%	8.0%	18.6%	19.7%	17.9%	14.9%	18.0%	13.3%	8.0%
キ 職場や家庭における男女共同参画	15.2%	8.4%	11.3%	9.4%	11.6%	10.7%	9.8%	12.4%	25.1%	25.2%	23.3%	23.9%	18.8%	11.5%
ク ボランティア、NPO活動や地域活動	18.6%	10.4%	8.5%	9.2%	9.8%	13.7%	12.9%	11.0%	18.5%	12.5%	11.7%	19.0%	15.2%	9.4%
ケ 就職、再就職のしやすさ	4.8%	3.6%	1.9%	2.3%	1.6%	3.5%	4.6%	62.8%	78.2%	76.2%	81.6%	79.2%	64.0%	43.3%
コ 自分の仕事にやりがいを持てること	8.3%	21.5%	22.1%	24.9%	24.2%	21.5%	13.9%	29.0%	40.6%	38.5%	41.3%	38.7%	27.6%	20.3%
サ 新鮮で安全な食品が買えること	42.8%	45.1%	47.5%	45.3%	44.0%	43.6%	34.9%	23.4%	22.4%	22.1%	22.3%	24.0%	21.9%	15.5%
シ 起業家や新たな産業の担い手などの人材の育成	8.3%	2.4%	2.5%	1.9%	3.0%	3.8%	6.0%	22.1%	33.4%	35.4%	37.2%	38.8%	31.0%	21.9%
ス 地域の特性を活かした農林水産物や加工品の生産	27.6%	27.5%	27.9%	21.0%	18.9%	19.4%	16.1%	13.1%	20.6%	20.2%	22.8%	30.4%	26.0%	17.1%
セ 地域産業の振興や雇用創出を図るための企業誘致の推進	6.2%	3.9%	3.5%	3.4%	3.4%	4.6%	5.5%	20.7%	38.8%	39.0%	44.7%	47.9%	41.7%	28.4%
ソ グリーン・ツーリズムなど都市と農山漁村の交流の推進	8.3%	4.5%	5.2%	4.5%	4.6%	4.8%	5.9%	9.7%	20.3%	16.2%	16.7%	22.2%	19.3%	13.4%
タ 県内の観光地や観光施設の充実度	15.9%	12.5%	15.6%	12.9%	13.4%	13.9%	14.6%	39.3%	46.9%	43.8%	41.3%	36.0%	31.3%	19.9%
チ 環境・エネルギー関連産業など新たな産業づくりの進展	9.7%	6.6%	7.9%	3.2%	4.4%	6.9%	5.9%	16.6%	30.4%	27.1%	28.5%	33.5%	27.6%	18.5%
ツ 商店街や地元の製造業を中心とした地域の活性化	5.5%	3.9%	4.6%	3.1%	3.3%	6.3%	7.0%	46.9%	58.8%	56.7%	60.5%	59.7%	50.7%	35.0%
テ 犯罪や交通安全対策	24.1%	23.9%	23.7%	25.4%	26.9%	28.5%	22.8%	22.1%	27.5%	27.3%	22.0%	19.0%	19.2%	12.8%
ト 詐欺、訪問販売をはじめとする消費生活に関する相談受付体制の充実	9.7%	11.0%	11.7%	10.4%	13.7%	14.3%	12.9%	15.9%	21.2%	20.2%	20.1%	18.5%	14.8%	11.4%
ナ 地震や台風などの災害対策	12.4%	14.6%	10.4%	12.9%	18.3%	19.3%	14.0%	15.2%	15.2%	16.5%	17.2%	15.3%	14.9%	11.0%
ニ 原子力関連施設の安全・安心の確保	11.0%	11.0%	7.9%	9.9%	10.4%	10.6%	10.3%	22.8%	28.7%	26.2%	28.0%	30.2%	29.3%	18.6%
ヌ 雪に強いまちづくりや雪の利活用	20.7%	12.5%	11.3%	9.2%	9.3%	12.4%	12.5%	24.8%	36.1%	33.1%	35.4%	32.5%	28.9%	18.1%
ネ 公園や下水道など身のまわりの生活環境	24.1%	20.6%	22.1%	21.8%	24.3%	25.8%	25.8%	24.8%	25.7%	28.5%	27.3%	22.8%	21.9%	12.4%
ノ インターネットや携帯電話などによる暮らしの高度情報化	22.8%	22.7%	22.9%	16.3%	12.7%	10.7%	8.0%	22.1%	19.1%	15.8%	11.8%	10.2%	8.2%	5.1%
ハ 通勤、通学、買い物など身近な交通の便	21.4%	18.5%	23.1%	19.1%	23.8%	27.2%	21.8%	46.2%	46.9%	40.8%	38.0%	33.4%	23.1%	19.1%
ヒ 県内各地を結ぶ道路等の交通ネットワーク	17.9%	22.7%	22.9%	22.7%	20.6%	25.7%	17.0%	22.1%	26.3%	26.0%	26.1%	19.5%	15.4%	10.5%
フ 旅行・出張などでの県外や国外への移動手段	15.2%	14.6%	18.3%	18.3%	16.9%	18.5%	14.0%	24.8%	32.5%	28.8%	23.5%	18.4%	11.7%	5.3%
ヘ 健康の保持、疾病の予防と早期発見・治療のための情報提供	19.3%	13.1%	15.4%	16.2%	20.3%	26.2%	22.5%	21.4%	28.4%	28.1%	25.1%	26.4%	17.3%	15.3%
ホ 病気のときにいつでも適切な医療が受けられる病院やかかりつけ医院があること	28.3%	20.0%	21.3%	23.6%	29.8%	34.9%	32.9%	31.7%	46.3%	41.7%	38.0%	31.0%	20.9%	14.4%
マ 安心して子どもを産み育てることができる環境	9.0%	6.9%	10.6%	13.4%	12.0%	11.8%	9.4%	33.1%	46.3%	49.6%	42.1%	40.7%	34.9%	21.9%
ミ 高齢者や障害者など、誰もが安心して外出できるまちづくり	10.3%	11.0%	10.2%	11.5%	10.4%	14.4%	13.4%	32.4%	32.8%	31.7%	31.7%	34.1%	28.9%	20.7%
ム 高齢者や障害者への自立のための支援	7.6%	5.1%	5.2%	7.3%	7.2%	9.4%	9.6%	24.8%	25.7%	24.8%	26.9%	32.0%	27.2%	21.2%
メ 必要な時に適切な健康相談・治療・福祉サービスが受けられるしくみ	11.7%	9.9%	9.2%	9.5%	11.5%	14.8%	17.1%	22.1%	26.6%	25.8%	25.6%	29.1%	23.5%	17.1%
モ 水、大気、緑などの自然環境の保全	29.0%	23.3%	19.2%	20.7%	20.1%	26.0%	22.8%	17.2%	22.4%	20.2%	18.4%	21.5%	16.4%	9.9%
ヤ 省エネルギーの定着や新エネルギー(太陽エネルギーなど)の活用	10.3%	8.7%	5.6%	6.1%	4.4%	6.7%	6.1%	18.6%	22.1%	22.7%	20.6%	21.6%	17.7%	10.6%
ユ ゴミの分別やリサイクル・廃棄物の処理	20.0%	17.0%	21.5%	23.9%	24.4%	31.1%	27.4%	26.2%	29.3%	24.4%	21.5%	23.5%	17.0%	10.4%

ウ 地域別の状況

各地域とも満足度が最も高いのは「新鮮で安全な食品が買えること」となっており、不満度が最も高いのは「就職、再就職のしやすさ」となっています。

生活局面別の満足度を地域別に見ると、「病気のときにいつでも適切な医療が受けられる病院やかかりつけ医院があること」では、東青、中南、三八の3地域では“満足”が“不満”を上回っているものの、西北、上北、下北の3地域では“不満”が“満足”を上回っています。また、「安心して子どもを産み育てることができる環境」では、上北を除く5地域は“不満”が30%台となっているのに対し、上北地域では“不満”が50%を超えており、地域間格差が大きくなっています。

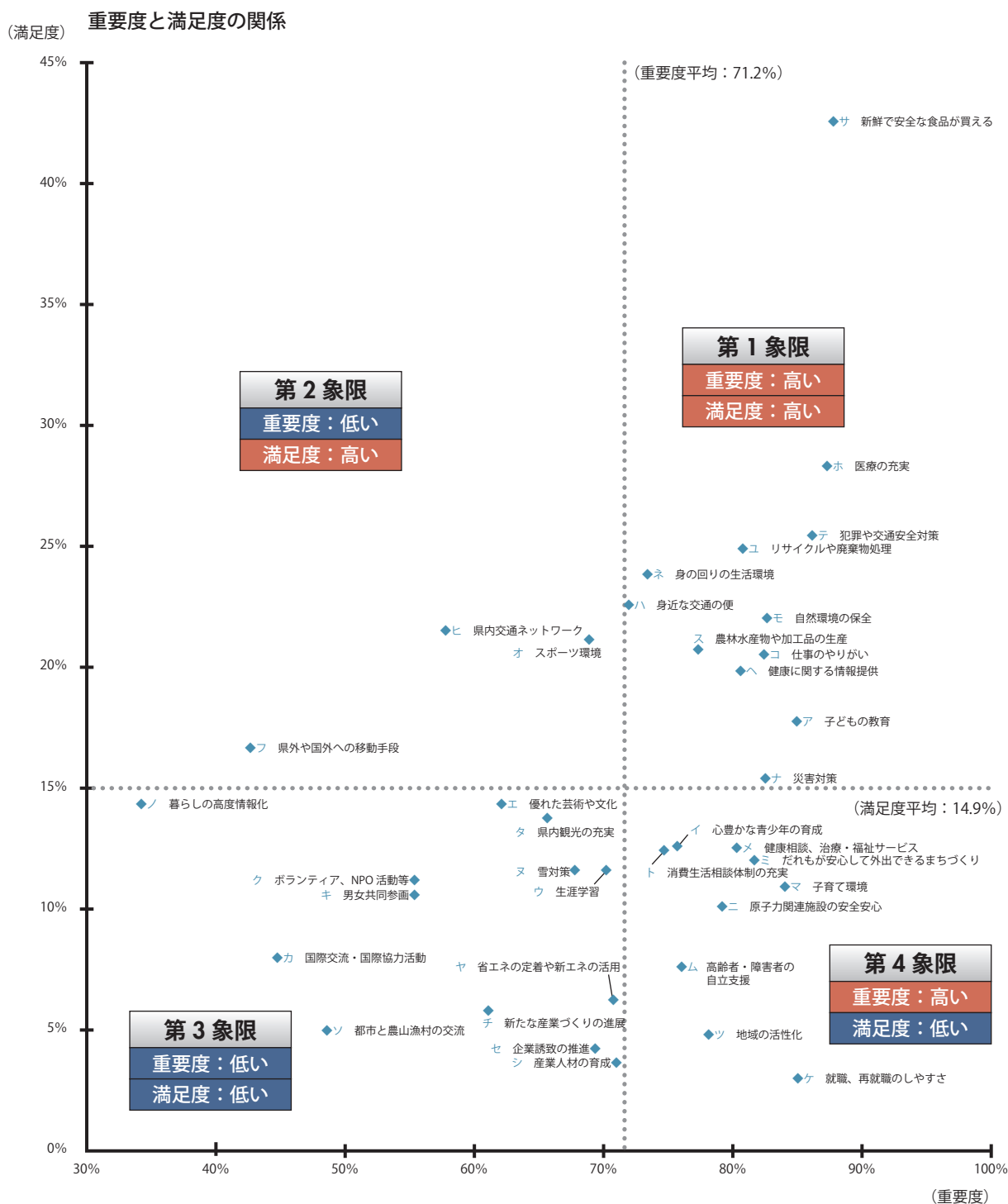
生活局面	満足						不満					
	東青	中南	三八	西北	上北	下北	東青	中南	三八	西北	上北	下北
ア 子どもが学ぶ楽しさを知り、確かな学力を身につけるとともに、創造力を伸ばせる教育	15.2%	20.0%	16.6%	21.1%	17.9%	20.9%	30.4%	23.6%	24.0%	22.4%	25.9%	27.8%
イ 心豊かな青少年の育成に対する地域一体の取り組み	10.2%	12.7%	12.3%	14.2%	14.4%	19.2%	30.4%	24.9%	24.4%	23.3%	27.2%	28.6%
ウ 生涯にわたり学びたいことを自由に学べる環境	11.5%	13.6%	10.9%	11.4%	12.5%	7.3%	29.4%	28.3%	28.2%	27.9%	29.9%	37.2%
エ 優れた芸術や文化にふれることができる環境	18.7%	16.0%	11.6%	11.6%	14.9%	11.1%	23.1%	28.2%	35.1%	26.2%	28.9%	37.2%
オ スポーツを楽しむことができる環境	19.3%	22.1%	20.5%	20.3%	25.9%	24.4%	27.0%	23.9%	26.5%	27.1%	23.2%	27.8%
カ 国際交流・国際協力活動への取組み	8.4%	7.4%	7.0%	8.5%	11.5%	5.6%	12.7%	14.9%	14.4%	14.0%	18.3%	21.4%
キ 職場や家庭における男女共同参画	10.6%	11.4%	9.6%	10.1%	12.7%	9.8%	19.8%	21.6%	22.2%	17.5%	20.3%	20.5%
ク ボランティア、NPO活動や地域活動	12.2%	11.4%	9.7%	10.6%	12.7%	13.2%	13.2%	14.6%	14.0%	15.2%	13.7%	19.7%
ケ 就職、再就職のしやすさ	2.2%	3.3%	3.4%	2.3%	4.9%	1.3%	69.1%	69.2%	68.8%	71.5%	68.5%	73.1%
コ 自分の仕事にやりがいを持っていること	19.1%	20.4%	21.1%	21.8%	25.0%	17.9%	32.3%	34.6%	33.1%	35.3%	33.8%	32.9%
サ 新鮮で安全な食品が買えること	45.7%	41.5%	40.6%	46.1%	44.3%	44.9%	20.5%	21.9%	24.1%	18.2%	21.2%	21.4%
シ 起業家や新たな産業の担い手などの人材の育成	3.9%	3.3%	3.6%	3.8%	3.7%	3.8%	34.9%	30.4%	28.9%	34.7%	32.7%	40.2%
ス 地域の特性を活かした農林水産物や加工品の生産	23.1%	20.1%	21.7%	19.7%	23.0%	16.7%	24.3%	22.8%	19.6%	25.8%	23.9%	28.6%
セ 地域産業の振興や雇用創出を図るための企業誘致の推進	3.7%	4.8%	4.4%	4.0%	4.2%	4.3%	41.9%	36.5%	36.9%	46.1%	38.6%	47.9%
ソ グリーン・ツーリズムなど都市と農山漁村の交流の推進	4.3%	5.2%	6.2%	5.1%	4.7%	5.1%	19.3%	15.7%	15.1%	20.1%	20.5%	20.9%
タ 県内の観光地や観光施設の充実度	12.7%	18.1%	10.0%	16.5%	15.7%	12.0%	38.6%	28.8%	39.4%	31.3%	35.4%	36.8%
チ 環境・エネルギー関連産業など新たな産業づくりの進展	6.3%	5.0%	6.1%	3.8%	8.1%	5.1%	28.3%	26.2%	26.8%	27.3%	26.1%	31.2%
ツ 商店街や地元の製造業を中心とした地域の活性化	5.9%	4.7%	4.4%	5.5%	4.2%	4.7%	53.4%	51.6%	50.7%	53.3%	58.2%	52.1%
テ 犯罪や交通安全対策	25.6%	24.2%	21.2%	34.0%	27.7%	29.1%	22.0%	19.1%	24.4%	16.7%	17.9%	15.8%
ト 詐欺、訪問販売をはじめとする消費生活に関する相談受付体制の充実	14.7%	11.4%	12.4%	13.5%	11.0%	13.2%	16.2%	17.3%	15.8%	17.5%	20.8%	15.0%
ナ 地震や台風などの災害対策	14.5%	14.8%	15.8%	16.7%	15.1%	19.7%	16.7%	14.1%	14.8%	13.7%	13.5%	15.4%
ニ 原子力関連施設の安全・安心の確保	11.0%	8.7%	8.0%	9.1%	12.9%	17.1%	29.4%	24.4%	27.5%	26.6%	24.0%	29.5%
ヌ 雪に強いまちづくりや雪の利活用	13.2%	12.0%	10.0%	11.2%	10.5%	14.1%	40.1%	34.7%	19.7%	29.8%	24.4%	22.6%
ネ 公園や下水道など身のまわりの生活環境	23.6%	30.3%	21.8%	20.3%	25.5%	17.5%	22.7%	16.5%	23.6%	26.6%	21.7%	32.9%
ノ インターネットや携帯電話などによる暮らしの高度情報化	13.4%	15.6%	14.3%	14.0%	16.9%	14.1%	11.1%	10.8%	11.1%	9.3%	11.8%	13.7%
ハ 通勤、通学、買い物など身近な交通の便	21.5%	24.9%	23.4%	24.9%	23.0%	17.1%	31.3%	29.8%	31.4%	30.7%	36.7%	40.2%
ヒ 県内各地を結ぶ道路等の交通ネットワーク	22.2%	24.5%	21.1%	24.1%	22.3%	9.4%	18.2%	15.5%	17.2%	16.3%	24.0%	47.0%
フ 旅行・出張などでの県外や国外への移動手段	18.6%	14.1%	20.2%	14.4%	20.3%	8.1%	16.8%	18.8%	13.1%	18.4%	20.3%	37.2%
ヘ 健康の保持、疾病の予防と早期発見・治療のための情報提供	19.6%	21.4%	19.6%	22.6%	20.0%	15.8%	23.5%	19.4%	20.9%	20.5%	27.4%	31.2%
ホ 病気のときにいつでも適切な医療が受けられる病院やかかりつけ医院があること	30.8%	35.7%	29.5%	26.2%	21.0%	18.8%	24.8%	23.8%	27.1%	33.8%	42.3%	43.6%
マ 安心して子どもを産み育てることができる環境	10.8%	14.1%	10.4%	12.9%	7.6%	10.7%	34.8%	30.6%	38.1%	36.2%	53.6%	38.9%
ミ 高齢者や障害者など、誰もが安心して外出できるまちづくり	10.9%	13.1%	11.1%	14.4%	12.2%	12.8%	30.3%	27.0%	30.6%	28.8%	32.7%	31.6%
ム 高齢者や障害者への自立のための支援	7.4%	6.5%	8.3%	8.2%	8.1%	9.0%	28.1%	24.9%	25.6%	27.7%	27.1%	27.8%
メ 必要な時に適切な健康相談・治療・福祉サービスが受けられるしくみ	12.3%	12.9%	12.2%	13.1%	12.2%	14.1%	24.5%	22.8%	23.6%	24.9%	26.7%	26.1%
モ 水、大気、緑などの自然環境の保全	25.9%	22.4%	18.7%	23.3%	22.8%	20.9%	16.2%	17.3%	19.5%	15.4%	19.0%	20.5%
ヤ 省エネルギーの定着や新エネルギー(太陽エネルギーなど)の活用	6.7%	5.6%	5.8%	5.9%	6.4%	8.5%	19.3%	19.2%	19.0%	16.3%	20.0%	17.1%
ユ ゴミの分別やリサイクル・廃棄物の処理	24.6%	26.8%	22.9%	28.5%	24.9%	26.1%	21.0%	20.0%	18.9%	18.4%	22.5%	21.4%

③ 重要度と満足度の関係

重要度が高く、満足度が低い第4象限にある項目が県民生活上の最重要課題と考えられます。

生活局面の重要度と満足度の関係を示したのが下図であり、横軸は重要度、縦軸は満足度を表しています。それぞれ右（上）へ向かうほど“重要”（“満足”）の割合が高く、左（下）へ向かうほど“重要”（“満足”）の割合が低いことを示しています。

この中で、県民生活上の課題として位置づけられるのは、重要度が高く満足度が低い第4象限にある「就職、再就職のしやすさ」などの項目であり、逆に、重要度が高く満足度も高い第1象限にある「新鮮で安全な食品が買えること」などの項目は青森県の強みとして、今後さらなる発展が見込まれる項目です。



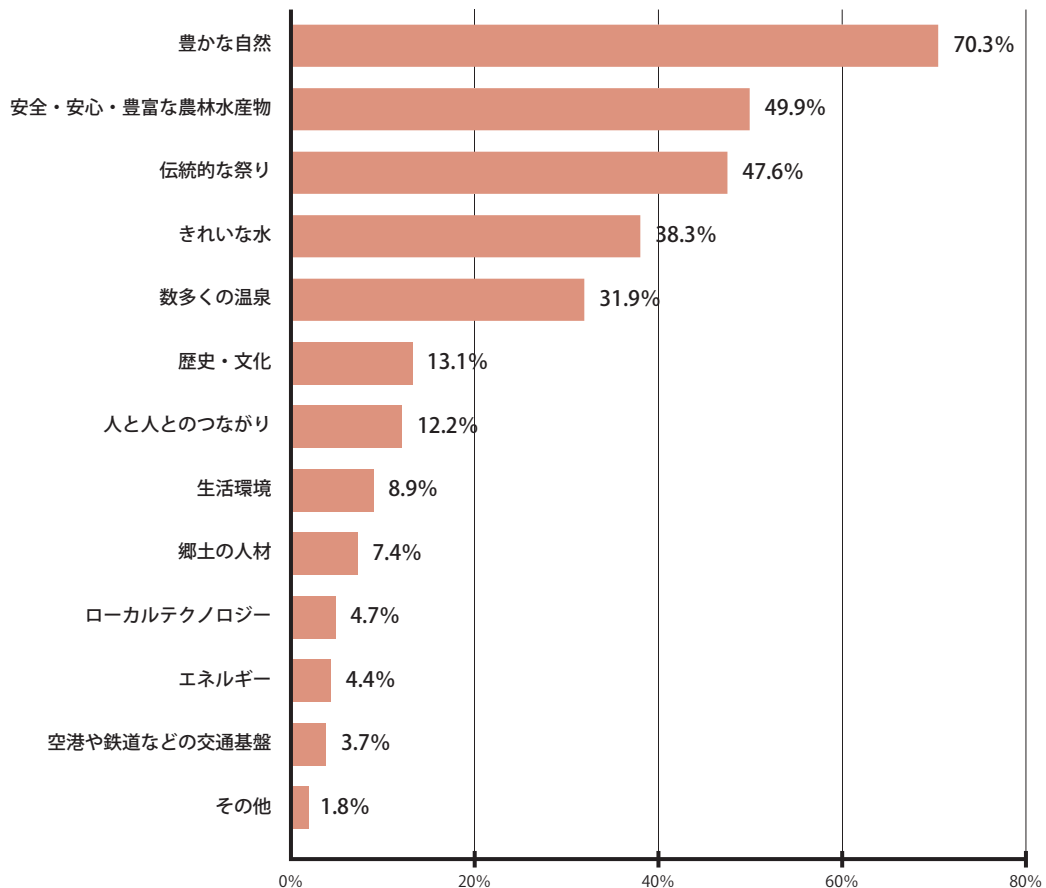
#### (4) 青森県の強み

(あなたは、地域振興に活用すべき青森県の強みは何だと思えますか。)

県民は「豊かな自然」や「安全・安心・豊富な農林水産物」が青森県の強みと考えています。

地域振興に活用すべき青森県の強みについて尋ねたところ、「豊かな自然」という回答が70.3%と最も高く、次いで、「安全・安心・豊富な農林水産資源」(49.9%)、「伝統的な祭り」(47.6%)となっています。

このほか、「きれいな水」「数多くの温泉」など、一般的に自然・風土に関する項目が強みとして挙げられています。



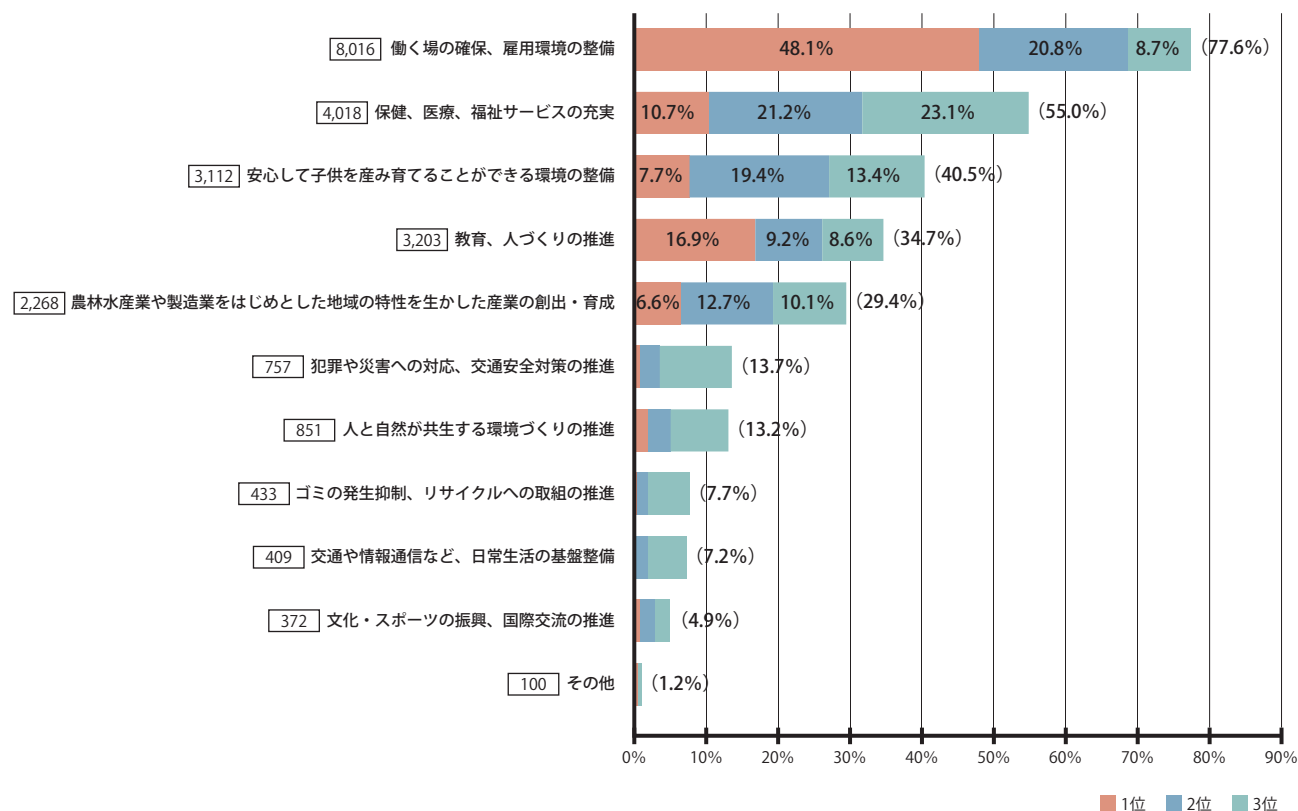
## (5) 将来に向けて必要な取組

(あなたは、青森県が、将来に向けて取り組む内容として、どのようなことが必要だと考えますか。)

約8割の県民が「働く場の確保、雇用環境の整備」について取り組むべきだと考えています。

青森県が、将来に向けて取り組むべき内容について、1位から3位まで尋ねたところ、1位から3位の単純合計では、「働く場の確保、雇用環境の整備」が77.6%となっており、次いで「保健、医療、福祉サービスの充実」が55.0%、「安心して子どもを産み育てることができる環境の整備」が40.5%などとなっています。

また、1位を3点、2位を2点、3位を1点として加重した場合、「働く場の確保、雇用環境の整備」が8,016点で最も高く、次いで「保健、医療、福祉サービスの充実」が4,018点となり、この2項目は単純合計の順番と同じですが、3番目は「教育、人づくりの推進」の3,203点となっており、「教育、人づくりの推進」を1位とした県民の多さが反映されています。



※1 必要だと思われる取組について、1位から3位までの順番を付けて回答してもらっています。

※2 □内の数値は1位：3点、2位：2点、3位：1点とした場合の加重得点となっています。

## 生活創造推進プラン 総合フォローアップ報告書(平成20年7月15日)の概要

「青森県基本計画未来への挑戦」を策定するに当たり、「青森県総合計画審議会」に設置した「次期青森県基本計画策定委員会」において、「生活創造推進プラン」(平成16～20年度)(以下「プラン」という。)のこれまでの取組状況を検証しつつ、今後の課題や施策の展開方向を明らかにするために、「生活創造推進プラン総合フォローアップ」を行った。

なお、フォローアップは「人財」、「産業・雇用」、「健康」、「環境」、「安全・安心」の戦略分野ごとにプランが掲げた5つの社会像と、「5つの社会像を実現するための仕組みづくり」において行ったものである。

### I 青森の豊かさを知り、夢をもって未来を拓く社会(人財)

本社会像は、「青森県の良さと可能性を知り、次代を担う人づくりが進められている社会」の実現をめざし、「子どもたちの生きる力と夢を育む教育の推進」「地域の教育力を高める環境づくりの推進」「文化・スポーツの振興と国際交流の推進」という3本の政策を展開するものである。

プランでは、本社会像を具体化していくため、青森県重点推進プロジェクト(わくわく10)(以下「わくわく10」という。)において、「自立する人づくり推進プロジェクト」を設定しており、それに基づく事業等が重点的に実施されたところである。

#### 【主な成果や課題等】

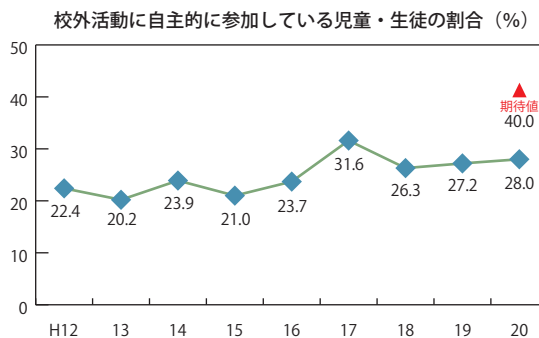
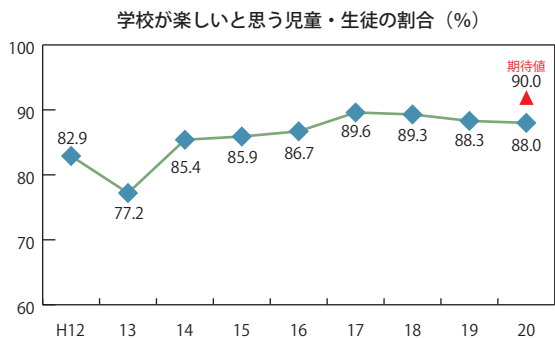
本社会像では、

- ◎小学校1・2年生及び中学校1年生を対象に少人数学級編制を実施したこと
- ◎平成18年7月13日に、強烈な個性を有する青森県のアーティストたちの原風景を探求し、青森県の芸術風土を世界に向けて発信することを目指した青森県立美術館がオープンしたこと
- ◎教員の進路指導能力の更なる向上を目的に、民間企業の現状・仕組み等を実際に体験し理解するため、1年間の長期企業派遣研修を行う「企業スピリッツ研修事業」を実施したこと(平成18、19年度)

など当該社会像の具体化に向けての動きが見られるが、中でも、平成18年度、人づくりに係る施策の総合的な推進を図ることを目的に県企画政策部内に「人づくり戦略チーム」が創設されたことは大いに注目すべき事象である。

「青森県民の意識に関する調査(平成20年4月実施)」において「将来に向けて取り組むべき内容について」1位から3位までを尋ねた項目では、「働く場の確保、雇用環境の整備」に次いで、「教育、人づくりの推進」を1位とした県民が多かったことから、県民の「人財」育成に対する思いの強さがうかがわれる。

人財の育成は「百年の大計」であり、一朝一夕の成果は期しがたい分野ではあるが、これまでの成果と明らかになった課題を踏まえながら、まずは教育分野における地道で着実な教育活動の展開、そして行政サイドにおける部局横断的で柔軟な政策展開を期待したい。



## Ⅱ いきいきと働ける豊かな社会（産業・雇用）

本社会像は、「地域経済に新たな活力が生まれ、都市（まち）や村やひとがいきいきしている社会」の実現をめざし、「働く場の創出・充実」「『攻めの農林水産業』の推進」「『あおりリズム』の推進」「青森の特性を踏まえた地域産業の振興」という4本の政策を展開するものである。

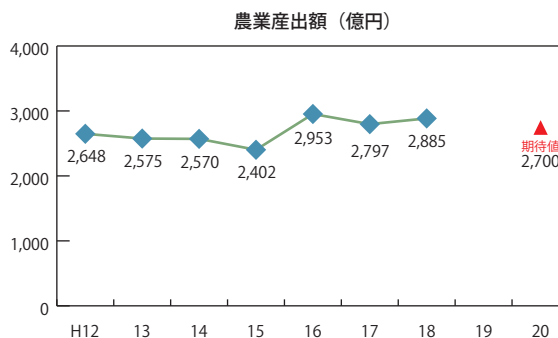
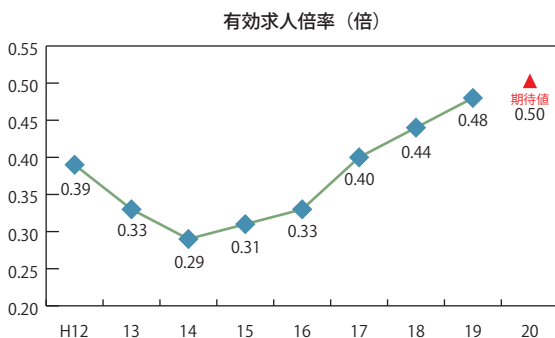
プランでは、本社会像を具体化していくため、わくわく10において、「しごと空間創造プロジェクト」「『攻めの農林水産業』総合販売戦略プロジェクト」「あおりリズム創造プロジェクト」「あおり型産業創造育成プロジェクト」「あおり循環型社会創造プロジェクト」「ユビキタスあおり推進プロジェクト」と、10本中6本のプロジェクトを設定し、それに基づく事業等が重点的に実施されたところであり、5つの社会像の中でその位置付けは抜きんできている。

### 【主な成果や課題等】

現在、青森県が抱える人口減少問題においては、雇用の場の確保と所得水準の向上が喫緊の課題となっており、このような手厚い対策が行われてきたことについては評価されるべきであるが、今次の戦後最長となっている景気拡大の恩恵が首都圏や一部中部圏にとどまり、なかなか地方にまで及ばなかったこともあり、残念ながら本県においては人口減少に歯止めをかけるに至るだけの成果には結びついていない。

そのような中で、

- ◎大手量販店で通常取引された県産品のアイテム数の大幅増（平成19年度は1,090種類と16年度の1.5倍）や、りんごの海外輸出量の大幅増（平成19年産は16年度の2倍）など「攻めの農林水産業」の推進が着実に成果を上げていること
  - ◎本県初の地域ファンドとして「あおりクリエイティブファンド」が平成19年6月18日に創設され、また「あおり元気企業チャレンジ基金」が平成19年9月に造成され、それぞれ実績を上げていること
  - ◎誘致企業新設・増設件数が、平成16年度からの4年間で97件にのぼっていること
  - ◎あおりリズムのモデル事例として発足した南部町の「達者村」において、修学旅行生のみならず一般客を対象とした商品が造成されるまでに農家民泊が進化したこと
  - ◎平成19年の外国人宿泊者数が平成15年の約2.7倍、70,860人にまで増加したこと
- など、当該社会像の具体化に向け注目に値する成果も多々見られるところである。



### Ⅲ 健やかで安心して暮らせる社会（健康）

本社会像は、「一人ひとりの命が輝き、人と人がしっかりと絆で支え合う社会」の実現をめざし、「健康寿命アップの推進」「医療サービスの充実」「親と子の健やかな育ち合いの推進」「誰もが生きがいを持ち自立して生活できる環境づくり」「保健・医療・福祉包括ケアの推進」という5本の政策を展開するものである。

プランでは、本社会像を具体化していくため、わくわく10において、「健康といのちの育み推進プロジェクト」「ユビキタスあおもり推進プロジェクト」を設定し、それに基づく事業等が実施されたところである。

#### 【主な成果や課題等】

本社会像は、個々人のレベルに還元してみれば、最も大切な価値を有する社会像であると考えられるところであるが、特に重要な指標といえる「平均寿命」をみると、平成17年の青森県の平均寿命は、男76.27歳、女84.80歳、とそれぞれ上昇傾向にあるものの、前回調査（平成12年）に引き続いて男女とも全国最下位に甘んじているという状況からすると、生活習慣病対策など、この分野において克服すべき課題は大きい。

また、医師確保をはじめ、県内の医療サービスをいかにして維持・向上させていくか、全国を下回る合計特殊出生率（平成19年 本県1.28 全国1.34）にも見られるような少子化傾向にいかんにかん止めをかけるか、全国ワースト3位となっている自殺率をいかに低下させるか、など対応すべき課題は多岐にわたっている。

そのような中で、

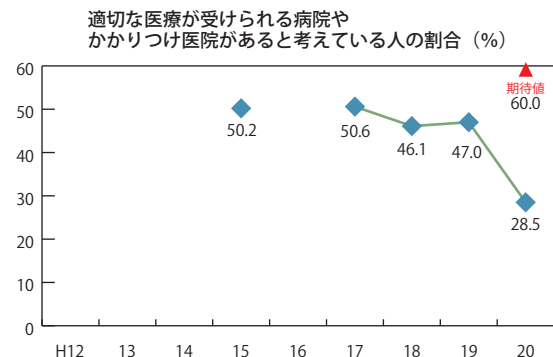
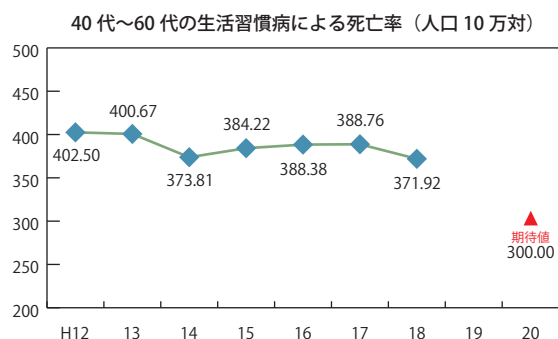
◎平成19年4月、病院事業管理者として国立がんセンター東病院長から吉田茂昭氏を招聘し、平成20年4月には青森県立中央病院の「がん診療センター」が本格稼働したこと

◎平成20年度の県内臨床研修医採用者が63名と、過去最高となったこと

◎全ての市町村において保健・医療・福祉包括ケアシステムに係る一定の基盤が整備されるなど同システムの推進が図られたこと

◎庁内ベンチャー制度の中から、「青い森のほほえみプロデュース事業」というユニークな事業が誕生し、県民に笑顔の効用を普及させていること

など明るい芽も現れ始めているところである。



## IV 環境と共生する循環型社会（環境）

本社会像は、「豊かな水・自然環境が次代に引き継がれ、資源循環の先駆けとなる取組が進められている社会」の実現をめざし、「水と緑の自然環境づくり」「ゼロエミッションをめざす資源循環の推進」「廃棄物処理・公害防止対策の推進」「多様な主体による環境保全活動の推進」という4本の政策を展開するものである。

プランでは、本社会像を具体化していくため、わくわく10において、「あおり循環型社会創造プロジェクト」「美しいふるさとの水循環推進プロジェクト」を設定し、それに基づく事業等が実施されたところである。

### 【主な成果や課題等】

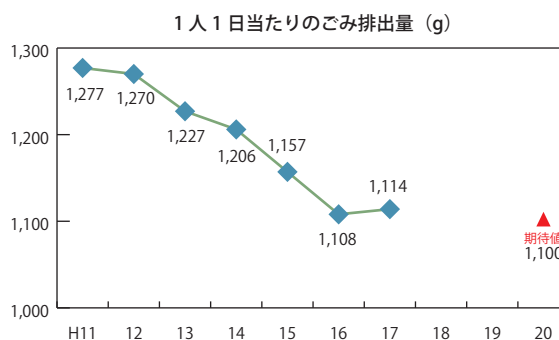
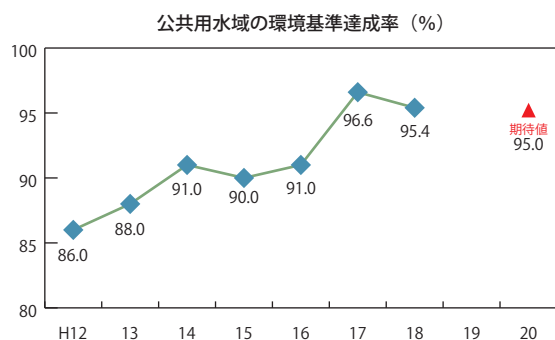
本社会像では、公共用水域の環境基準達成率が目標値をすでに達成しているなど（平成18年度で95.4%）、一部で評価すべき動きも見られるものの、

- ◎1人1日当たりのごみ排出量が低下傾向にはあるが、まだ全国順位が下位にとどまっていること（平成17年度で39位）
- ◎ごみのリサイクル率が11.8%（平成17年度）にとどまり、全国（19.0%）と比較して低迷していること
- ◎二酸化炭素排出量が、目標値を未だ20%程度上回っていること
- ◎自然保護活動参加率が低位にとどまっていること（平成19年度で24.0%）

など、必ずしも順調な動きを示しているとは言い難い状況にある。

さらに、首都圏等から持ち込まれる産業廃棄物の不法投棄発見件数（10トン以上）は着実に減少しているものの、岩手県との県境に大量の産業廃棄物が投棄され、いまだその原状回復の途上にあることなども考え合わせれば、本社会像の実現に向けて一層の努力が求められる。

一方で、平成17年9月に改訂された「あおりエコタウンプラン」において、焼却灰・ホタテ貝殻リサイクル施設や溶融飛灰リサイクル施設など先駆的なゼロエミッション事業が展開されていること、風力発電導入量が全国トップクラスとなっていることに加え、平成19年度には、全国初となる蓄電池併設型風力発電施設が導入されるなど再生可能エネルギーの分野では先進県の位置を占めるに至ったこと、さらには平成18年度には環境を公共財として捉え、農林水産業の生産基盤や農山漁村の生活環境などの整備を進める「環境公共」という新たな概念を独自に打ち出したことなど、可能性豊かな施策を展開していることは大いに評価されるところである。



## V 安全・安心で快適な社会（安全・安心）

本社会像は、「安全・安心がしっかりと確保され、生活の可能性が広がる社会」の実現をめざし、「安全・安心な生活環境づくり」「災害に強い地域づくり」「原子力安全対策の推進」「快適な生活環境づくり」「交流を支える基盤づくり」という5本の政策を展開するものである。

プランでは、本社会像を具体化していくため、わくわく10において、「地域安全・防災推進プロジェクト」「ユビキタスあおもり推進プロジェクト」を設定し、それに基づく事業等が重点的に実施されたところである。

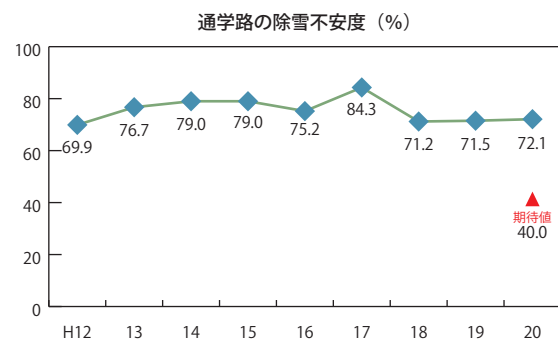
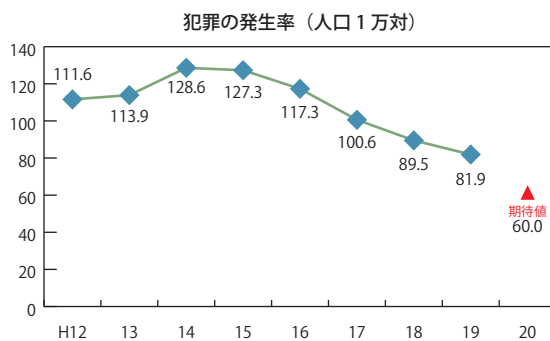
### 【主な成果や課題等】

本社会像では、

- ◎犯罪発生率及び交通事故発生件数が低下傾向にあること
- ◎平成18年4月に「青森県犯罪のない安全・安心まちづくり推進条例」が制定されたこと
- ◎洪水ハザードマップが公表され、洪水時の円滑、迅速な避難誘導が可能となったこと
- ◎平成19年3月には青森空港に計器着陸システム「CAT-IIIa」が整備され、欠航が大幅に減じたこと
- ◎東北新幹線新青森駅開業に向けて、建設工事が順調に進展していること

など当該社会像の具体化に向けての動きも見られたものの、一方では、雪に強いまちづくりに対する満足度がまだ低いこと、ブロードバンドをはじめ県民生活におけるITの利活用が不十分であること、人口減少下での新たな公共交通ネットワークの構築が求められていること、等々課題は多い。

さらには、中国製ギョウザの農薬混入による健康被害等、食の安全・安心基盤を揺るがすような事件が続発していること、本県においても鳥インフルエンザに感染した白鳥の死骸が発見されるなど、青森県という一エリアを超えて忍び寄る危険因子にも十分目配りが必要な時代に際会していることを十分認識しなければならない。

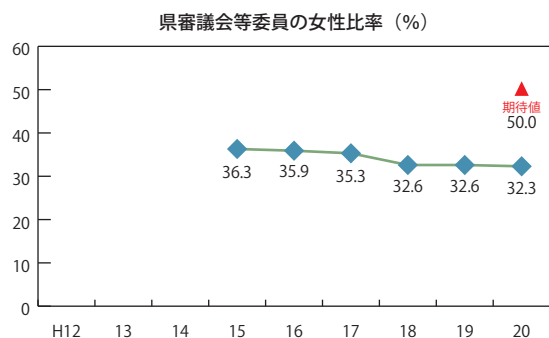


## VI 5つの社会像を実現するための仕組みづくり

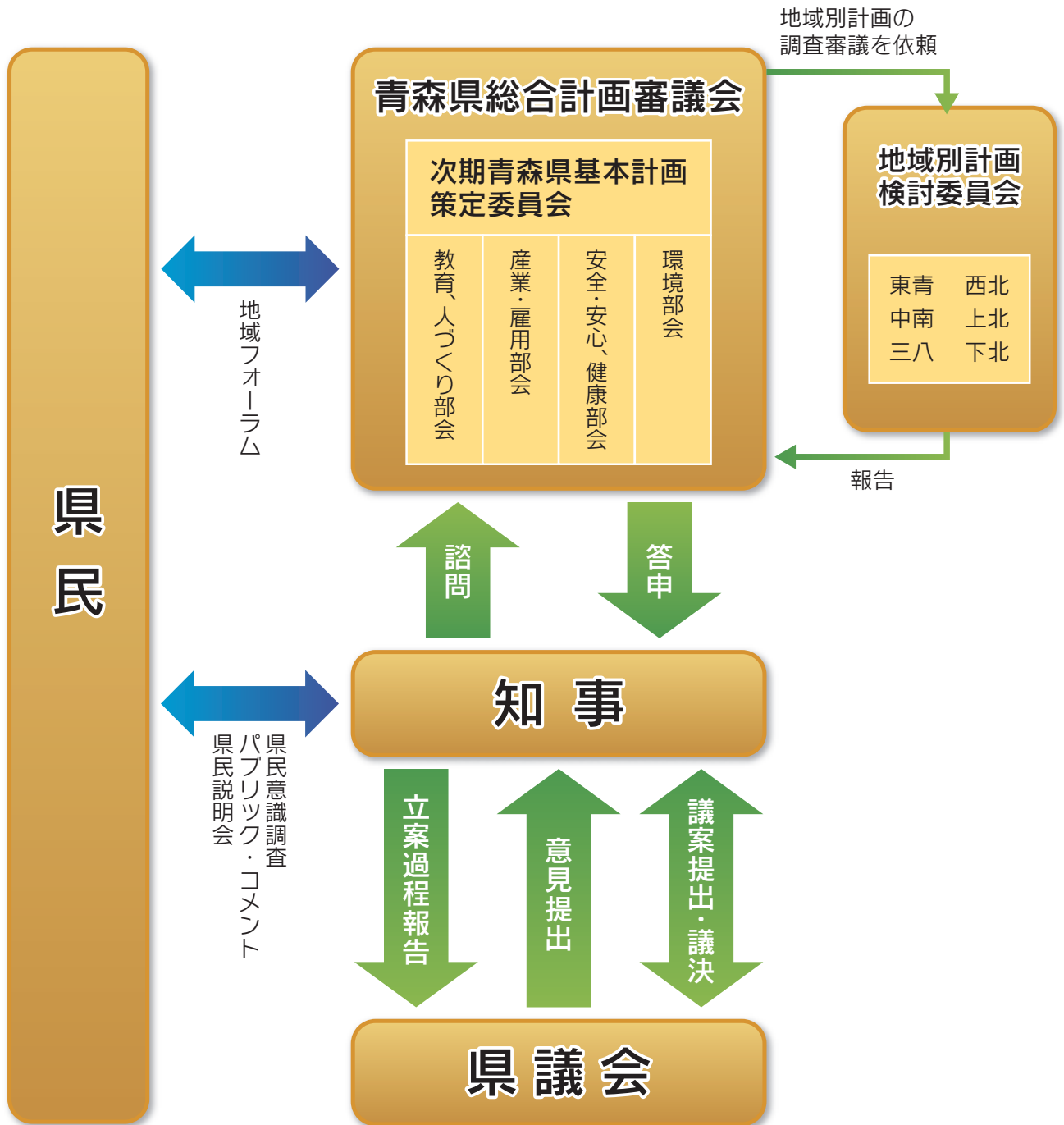
プランでは、5つの社会像を実現するための仕組みづくりとして、「男女共同参画の推進」と「社会参加と協働の推進」が必要であるとしている。

### 【主な成果や課題等】

「青森県民の意識に関する調査（平成20年4月実施）」によると、それぞれを代表すると考えられる「職場や家庭における男女共同参画」及び「ボランティア、NPO活動や地域活動」という項目については、37項目中、重要度ではそれぞれ32位、33位、満足度ではそれぞれ27位、25位と低位に位置しており、県民の意識面においてはまだまだ改善の余地があると考えられるが、平成16年度の意識調査に比較すると、その重要度において、「ボランティア、NPO活動や地域活動」は23.9ポイントと最大の上昇幅を、また「職場や家庭における男女共同参画」も15.1ポイントと大きな伸びを示していることから、今後の役割の増大に一層期待が持たれるところである。



# 「青森県基本計画未来への挑戦」策定フロー図



## 「青森県基本計画未来への挑戦」策定の経緯

平成20年2月28日	第5回青森県総合計画審議会の開催 ・次期青森県基本計画の策定に関する基本的考え方について
平成20年4月2日	次期青森県基本計画（仮称）の策定について庁議了解
平成20年4月14日～25日	青森県民の意識に関する調査（1万人アンケート）の実施
平成20年4月24日	第6回青森県総合計画審議会の開催 ・次期青森県基本計画（仮称）の策定について諮問
平成20年4月24日	第1回次期青森県基本計画策定委員会の開催
平成20年4月～7月	次期青森県基本計画策定委員会各部会の開催（各部会5～6回ずつ）
平成20年5月～7月	各地域別計画検討委員会の開催（各地域3回ずつ）
平成20年6月26日	第1回次期青森県基本計画策定委員会幹事会の開催 ・次期青森県基本計画（仮称）の骨格案について
平成20年7月15日	「生活創造推進プラン総合フォローアップ報告書」及び 「平成21年度の取組に向けての提言」の知事への手交
平成20年8月5日	第2回次期青森県基本計画策定委員会幹事会の開催 ・次期青森県基本計画（仮称）の骨子案について
平成20年8月25日	第2回次期青森県基本計画策定委員会の開催
平成20年8月25日	第7回青森県総合計画審議会の開催 ・次期青森県基本計画（仮称）の素案について
平成20年8月28日～31日	地域フォーラムの開催（青森市、弘前市、八戸市、五所川原市、十和田市、むつ市）
平成20年9月2日	第3回次期青森県基本計画策定委員会幹事会の開催 ・次期青森県基本計画（仮称）の答申について
平成20年9月22日	第3回次期青森県基本計画策定委員会の開催
平成20年9月22日	第8回青森県総合計画審議会の開催 ・次期青森県基本計画（仮称）の答申について
平成20年9月24日	次期青森県基本計画（仮称）の策定について答申
平成20年9月29日	（仮称）次期青森県基本計画（原案）の県議会への立案過程の報告
平成20年9月30日～10月29日	（仮称）次期青森県基本計画（原案）のパブリック・コメントの実施
平成20年10月10日～10月17日	県民説明会の開催（青森市2回、弘前市、八戸市、五所川原市、十和田市、むつ市）
平成20年11月5日	「青森県基本計画未来への挑戦」（案）庁議決定
平成20年12月10日	「青森県基本計画未来への挑戦」県議会議決

## 青森県総合計画審議会委員名簿

(敬称略、50音順、◎会長、○会長職務代理者) 平成20年12月現在

氏名	職名等	次期青森県基本計画策定委員会
井口 泰孝	八戸工業高等専門学校校長	教育、人づくり部会
伊香 佳子	青森市新町商店街振興組合理事	産業・雇用部会
大谷 真樹	ヤフーバリューインサイト株式会社取締役・創業者	産業・雇用部会
小川 千恵	NPO法人むつ下北子育て支援ネットワーク ひろば代表理事	安全・安心、健康部会
角濱 光昭	青森県農業協同組合中央会副会長	安全・安心、健康部会
川井 若奈	青森県連合青年団団長	安全・安心、健康部会
北原 かな子	秋田看護福祉大学教授	教育、人づくり部会
久保 薫	青森中央短期大学学長	安全・安心、健康部会長
古川 俊	青森県信用漁業協同組合連合会代表理事会長	
佐々木 義樓	青森県医師会会長	
○佐々木 俊介	青森公立大学教授	策定委員長代理、環境部会
佐藤 敬	弘前大学大学院医学研究科長	安全・安心、健康部会
佐藤 大介	株式会社三沢奥入瀬観光取締役総支配人	産業・雇用部会
佐藤 紘昭	弘前大学教育学部 附属教員養成学研究開発センター教授	教育、人づくり部会長
末永 洋一	青森大学総合研究所所長	策定委員長、産業・雇用部会
清野 優美子	青森県生活改善グループ連絡協議会副会長	環境部会
高山 貢	財団法人青森地域社会研究所専務理事	産業・雇用部会長
辻 悦子	NPO法人子どもネットワーク・すてっぷ 代表理事	教育、人づくり部会
鶴海 誠一	日本銀行青森支店長	産業・雇用部会
中居 雅博	有限会社北のグルメ都市代表取締役	環境部会
橋本 淳一	八戸セメント株式会社総務部業務課長	環境部会長
◎林 光男	青森県商工会議所連合会会長	
松尾 泉	弘前大学大学院在籍	安全・安心、健康部会
柳澤 泉	NPO法人NPO推進青森会議副理事長	教育、人づくり部会
柳谷 鈴江	生涯学習開発財団認定コーチ	教育、人づくり部会
山田 スイッチ	コラムニスト	環境部会

# 地域別計画検討委員会委員名簿

(敬称略、順不同、二重囲みは委員長) 平成20年7月現在

	氏名	職名等	氏名	職名等	氏名	職名等	氏名	職名等
東青地域	相内 喜久男	東郡地区商工会連絡協議会会長	五十嵐 實	野辺地町漁業協同組合代表理事組合長	伊香 佳子	青森市新町商店街振興組合理事	井上 主税	あすなる農業協同組合代表理事組合長
	大坂 憲一	(株)大坂組代表取締役社長	奥崎 一敬	新あおもり農業協同組合代表理事組合長	木戸 宏文	(株)木戸食品代表取締役	木浪 昭	外ヶ浜漁業協同組合代表理事組合長
	工藤 敏昭	浪岡農業協同組合代表理事組合長	齋藤 一志	(株)国土社代表取締役	櫻田 稔	青森観光コンベンション協会専務理事	佐々木 俊介	青森公立大学教授
	笹原 博美	平内町観光協会会長	佐藤 光彦	青森県商工会連合会専務理事	鹿内 雄二	(株)鹿内組代表取締役社長	鈴木 久	(株)青森銀行法人部副部長
	袖谷 和穂	三厩旅館組合組合長	高畑 廣子	ボランティア団体ラブ&ピース代表	中村 明義	青森商工会議所専務理事	八戸 良幸	東つがる農業協同組合代表理事組合長
	船水 俊雄	(株)みちのく銀行支店部部長	三津谷 廣明	平内町漁業協同組合代表理事組合長	柳澤 泉	NPO法人NPO推進青森会議副理事長	横内 憲悟	青森市漁業協同組合代表理事組合長
	吉岡 賛次	青森市浪岡商工会会長	相馬 政人	青森市企画調整課長	小形 光丸	平内町総務課長	米田 孝則	今別町総務課長
	八戸 通正	蓬田村総務課長	山内 俊二	外ヶ浜町政策推進課長	横山 重樹	青森地域広域事務組合広域振興室長	中島 久宜	青森県東青地域県民局長
中南地域	倉田 和恵	(有)プレス代表取締役	小谷田 文彦	弘前大学人文学部准教授	齋藤 悦朗	弘前航空電子(株)取締役総務部長	佐藤 晋也	青森県立弘前実業高等学校藤崎校舎教頭
	杉田 浩	(株)青森銀行弘前支店取締役支店長(～H20.6)	土居 真理	(株)青森酒造店代表取締役社長	福井 尚二	(株)青森銀行弘前支店執行役員支店長(H20.6～)	森 樹男	弘前大学人文学部准教授
	山本 和之	(株)NHK文化センター弘前支社長	山形 恵昭	弘前市企画部企画課長	沖野 俊一	黒石市企画財政部企画課長	齋藤 久志志	平川市企画財政部企画財政課長
	西澤 一司	西目屋村総務課長	小杉 利彦	藤崎町企画課長	大川 厚六	大鰐町企画観光課長	八木橋 輝秋	田舎館村総務課長
	平尾 洋	津軽広域連合総務課長	佐藤 和雄	青森県中南地域県民局長				
三八地域	加藤 公二	(株)八戸インテリジェントプラザ副所長	河村 喜久雄	八戸みなと漁業協同組合専務理事	工藤 哲子	さんのへ農産加工友の会会長	佐々木 進	達者村づくり委員会総務部会長兼企画・宣伝部会長
	佐々木 広幸	八戸商工会議所業務部長	佐藤 勝俊	八戸工業高等専門学校副校長	高橋 俊行	八戸地域社会研究会会長	高畑 紀子	ホテルJALシティ八戸統括支配人
	舘 攻	八戸水産加工業協同組合連合会専務理事	中川 健志	アズエ電気(株)常務取締役	福田 昭良	NPO法人循環型社会創造ネットワーク専務理事	福山 義幸	八戸地区指導農業士会会長
	藤村 幸子	はちのへ女性まちづくり塾生の会代表	石田 慎一郎	八戸市総合政策部政策推進課長	藤村 正彦	三戸町総務課長	向山 努	五戸町参事(企画振興課長)
	飯豊 正男	田子町総務課長	奥瀬 敬	南部町参事(企画調整課長)	浜谷 義勝	階上町総務課長	横田 孝夫	新郷村参事(総務課長)
	堀内 芳男	青森県三八地域県民局長	東 和生	青森県三八地域県民局地域連携部長				
西北地域	石澤 優	(株)ふくらう開発代表取締役専務	香取 薫	青森公立大学教授	川嶋 大史	あおもり映画祭実行委員会本部事務局代表	後藤 康孝	青森職業能力開発短期大学校能力開発部長
	柴谷 清一	つがるにぎは農業協同組合販売指導部常務企画課長	下山 保則	(株)青森銀行五所川原支店支店長(H20.7～)	杉澤 むつ子	鯉ヶ沢温泉ホテルグランメーブル山海荘代表取締役社長	辻 悦子	NPO法人子どもネットワーク・すてっ代表理事
	対馬 逸子	津軽半島観光コンシェルジュの会「めぐりネット」事務局長	福井 尚二	(株)青森銀行五所川原支店支店長(～H20.7)	福田 博明	新深浦町漁業協同組合総括部長	藤田 治一	五所川原商工会議所専務理事
	岩崎 明彦	五所川原市総務部企画課長	鎌田 常芳	つがる市財政部企画課長	平田 衛	鯉ヶ沢町政策推進課長	佐藤 洋一	深浦町企画財政課長
	田澤 靖也	板柳町企画財政課長	澤田 武彦	鶴田町総務課長	坂田 文明	中泊町企画調整課長		
上北地域	上野 雅	介護老人保健施設「とわだ」事務局長	大山 安博	上北農産加工業協同組合事業部長	欠畑 茂治	(株)スーパーカケモ代表取締役社長	川井 吉彦	日本原燃(株)代表取締役副社長広報・地域交流室長
	小林 博子	上十三保健所管内食生活改善推進員連絡協議会副会長	櫻田 一雅	十和田商工会議所専務理事	佐藤 大介	(株)三沢奥入瀬観光取締役総支配人	澤頭 隆夫	十和田観光電鉄(株)代表取締役社長
	高橋 弘	北里大学獣医学部教授	竹ヶ原 公	青森県地域づくり推進ネットワーク協議会幹事	森田 玲子	(社)十和田湖国立公園協会観光婦人会副会長	川村 史郎	十和田市企画調整課長
	野々宮 忠良	三沢市政策調整課長	蛭名 進一	野辺地町企画財政課長	楠 章	七戸町企画財政課長	下田 正幸	六戸町企画財政課長
	鳥山 明夫	横浜町総務課長	藤田 茂	東北町企画課長	高橋 淳悦	六ヶ所村企画調整課長	松林 由範	おいらせ町企画課長
	小野村 勉	青森県上北地域県民局地域連携部長						
下北地域	磯山 隆幸	写真家、脇野沢ユースホテル経営	清川 わか	下北未来塾事務局長	笹沼 正悦	川内町観光協会事務局長	島野 慶司	アルサス活性化協議会運営委員長
	瀬川 文子	Big・Axe会長	竹園 育雄	むつ商工会議所中小企業振興部次長	田村 将導	やると会会長	宮浦 雅子	大畑町八幡宮
	山崎 孝悦	東通米生産販売振興会会長	山本 俊	青森県商工会連合会北部広域指導センター所長	吉田 武美	下北水産振興会事務局長	伊藤 道郎	むつ市企画部企画課長
	菊池 武利	大間町参事(企画調整課長)	田中 政明	東通村経営企画課長	廣谷 一郎	風間浦村総務課長	鹿嶋 年男	佐井村行政改革室長
	佐藤 仁	青森県下北地域県民局地域連携部長	小山内 豊彦	青森県企画政策部参事(企画課長)				

## 青森県企画政策部企画課

---

〒030-8570 青森市長島1-1-1

電話：017-722-1111（代表）

平成21年3月発行



イラスト／青森県総合計画審議会 山田スイッチ委員